FM YAMATO 77.7MHz

やまもり☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』

第 411 回 11/1（火）
「NPO 法人　ゲートキーパー和楽」
代表理事　小泉 早苗さん

ご自身が営む会社の運営事業の１つとして開催した学びの場での縁をきっかけに 2021 年 12 月 NPO 法人ゲートキーパー和楽を設立し、現在 15 名のメンバーで活動しています。「ゲートキーパー」とは悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ必要な支援に繋げ見守る一連の心遣い、例えると「心地よいお節介」と小泉さんは語ります。設立から１年、今を種蒔きの時と捉えゲートキーパー精神で思いやりを持ち助け合うことで明るく健康な未来に繋げることを目指し、種を実らせるための準備が着々と進められています。

今後の予定
こころサポーター養成講座（ZOOM 無料）
1/23（月）18:30～20:00

第 412 回 11/15(火)
「やまとパワフルミュージックサポート」
代表　市瀬 俊彦さん

大和駅前で開催している骨董市と同時開催「骨董ライブ」の名称を「大和駅前パワーアップイベント」に変更し、大和駅前のイベントをパワフルに開催することで大和を元気にしたいという願いのもと、４名のメンバーで音楽などのライブイベントを企画し開催しています。2020 年に神奈川県から、2022 年は大和市市民活動推進補助金事業として毎月第３土曜日に引地台公園野外音楽堂で「やまとパワーアップイベント」を開催し市民と出演者が交流して誰もが元気になれるような場所を提供するべく活動しています

今後の予定　やまとパワーアップイベント
12/17（土）・1/21（土）・2/18（土）
引地台公園 野外音楽堂（雨天中止）

第 413 回 11/29(火)
「NPO 法人　パノラマ」
理事長　石井 正宏さん

2000 年からひきこもりの若者の支援から活動を始め、2015 年３月「NPO 法人 パノラマ」を設立しました。幅広く途切れのない支援を目指して 22 名のメンバーで活動しています。大和市内では大和東高校で毎週金曜日に開く校内居場所カフェ「BORDER CAFÉ」と毎週火・金曜日に朝食提供事業を行っています。「地域の中に居場所を作っていきたい」と、子どもたちが置かれている状況や社会問題の理解を深めるボランティア養成講座や校内居場所カフェスタッフ養成講座の開催が予定されています。

次回の出演 414 回 12/6（火）「やまと国際オペラ協会」　415 回 12/20（火）「NPO 法人 ブラービ」
FM やまと　77.7MHz 第 1.3.5(火)　生放送 9：00 ～ 10：00　　同日再放送 15：00

TSUBASA's トーク　第 14 回「米麹・味噌づくり教室で知った豊かさ」

①「おばあちゃん」世代の方々と、米麹・味噌づくり

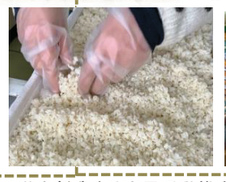
岩手県一関市で「緑のふるさと協力隊」としてボランティア活動に取り組んでいます。11/29～12/1 の期間、地域の市民センター（公民館）の米麹・味噌づくり教室に、お手伝いも兼ねて参加しました。

参加者のほとんどは私からみて「おばあちゃん」にあたる世代の方々でした。参加者の方々から「孫が来てくれた！」と歓迎され、私の家の場所や普段の食事などいろいろ訊かれ雑談しながら、米麹と味噌づくりを楽しみました。

② 麹特有の甘酸っぱい香りと、米麹の手触り

麹づくりでは、蒸しておいた米と麹菌の粉を手で混ぜ込むところから始め、一升単位で薄手の木箱（育苗箱）に移し、３日目まで温室で寝かせました。

蒸したての米の感触は炊いた米より固くザラザラしていて、乾燥したご飯の手触りに似ていたのですが、麹が増えるとポロポロのチャーハンのような感触になり、育苗箱を入れた温室からは、鼻にツンとくるような麹特有の酸っぱい香りがしました。



２日目には、麹菌の活性を良くするために育苗箱の米を手でかき混ぜて空気を入れる「切り返し」の作業もしたのですが、かき混ぜるたびに温かい米からその甘酸っぱい甘酒に近い香りが漂ってきました。

③ 手作りの米麹で味噌づくり

３日目まで温めた米麹と、地域の方が育てたという大豆（茹でたもの）、塩を手で混ぜて、味噌を作りました。柔らかくなった大豆が崩れて麹と混ざり、旨味を感じさせる香りを嗅ぐと、思わずお腹が空いてしまいました。作った味噌は半年間寝かせることで、色付き完成するそうです。

④ 手作りに囲まれる生活の豊かさ

教室で使った米や大豆は、おばあちゃんたちが作ってくれた食材です。自分達で育てた食材で調味料を手作りして、それを使った食事に囲まれて、という生活の豊かさや手作りの手間の楽しさを知ることができました。　（サポーター：尾畑　翼）

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手　この手」　第 185 号　　発行日：2022 年 12 月 10 日　　発行：大和市民活動センター　拠点やまと

大和市民活動センター　＜開館日　月～土　9:00～18:00＞
＜休館日 12 月 29 日～1 月 3 日・毎月第 3 月曜日＞
〒242-0018 大和市深見西 1－2－17
TEL:046-260-2586　FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyodounokyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手　この手

あの手この手のマークの間のSは solution（解決）のSです。

第 185 号　2022 年 12 月 10 日　　大和市民活動センター［拠点やまと］ 発行

12 月号 2022

ベテルギウス玄関
１２月６日の生け花

表紙絵は　「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催
2022「第１５回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を毎号掲載しています。
今回のテーマ　～平和・いま私にできること～
インターナショナル賞　藤川 愛莉咲（ありさ） さん
柳橋小学校３年生（ペルー）

タイトル：「みんなで地球を守る」
メッセージ：「私たちにできることは、ほんの少しするだけで、世界は大きく変えられると思います。」
保護者から：「複数の絵を描いて決めた絵です。どの絵も丁寧に気持ちを込めて描いていました。」

令和 5 年度市民活動推進補助金を募集

☆活動に合わせ、２つの区分があります
◆めばえ５万円（活動初期の補助）
◆はぐくみ 20 万円（活動発展の補助）

申込み：1 月 11 日(水)までに、応募書類（企画書、収支予算書など）を大和市民活動センターへ提出
＊説明・相談を実施。予約は当センターへ
（日曜日、12 月 19 日、29 日～1 月 3 日を除く）

対象となる事業：社会に貢献する非営利の事業
（その他の条件は募集要領を参照）

応募方法等の詳細は募集要領※をご覧ください。
※大和市民活動センター、市役所市民活動課、各学習センターで配付。市のホームページからダウンロードもできます。

協働推進会議の委員を募集

「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づく協働事業の提案に対し、調査・審議をする協働推進会議の委員を募集します。（年 3～4 回程度の会議を開催）

任期▼令和 5 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日
対象▼次の 2 つの条件を満たす者
1.市内在住・在勤・在学・在活動者
2.令和 5 年 4 月 1 日現在、他の審議会などの公募委員になっていない人（予定を含む）
定員▼2 人　報酬▼会議 1 回につき 8,900 円　選考▼書類審査

申し込み▼1 月 6 日（金）（必着）までに応募用紙と「私が地域のためにやってみたいこと」をテーマにした 800 字程度の小論文（任意の書式）を、直接、FAX または郵送で〒242-8601 市役所市民活動課へ。インターネットによる電子申請も可。
※申込書類は同課で配布するほか、市のホームページからダウンロードもできます。TEL（260）5103　FAX（260）5138

第１００回 共育セミナー（開催レポート）
ウイズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動
その４ 多様化する社会に生きるということ

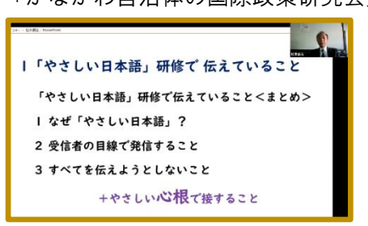
第 100 回の記念すべき共育セミナーを１０月２９日（土）にオンラインとセンター参加者のハイブリッド型で開催しました。ここ１年、コロナがなかなか収束しない中、市民活動が人と人をつなぐ意味で、大きな役割を果たすことには変わりはないという観点から、社会貢献活動に関わる多くの人々にエールを送り、一歩踏み出す勇気を持つ人を後押ししたいという趣旨で、このセミナーを継続開催している。

今回は、（一社）国際多文化研修ラボ代表理事、（一財）自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザーの松本義弘さんと、(特非)ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア理事長の永井圭子さんをゲストスピーカーにお招きして、それぞれの活動報告をしていただいた後に、「多様化する社会に生きるということ」をテーマに、トークセッションを展開していただいた。今号では、この日のセミナーでのおふたりのトークから、ますます多様化が進む社会において、どのようにインクルージョンを進めていけばよいのかは大きな課題ではある中で、私たちには何ができるのか語っていただいた。そのエッセンスとそこから得られた方向性を報告する。

文責:船越　英一　イラスト:望月　則男

事例報告１
「やさしい日本語」研修で伝えていること、多文化共生とは　etc　　松本 義弘さん

松本義弘さんとは、今回のコーディネーターの船越が大和市役所で、多文化共生を担当していた時に県内自治体の担当者が集まる会議で出会いました。当時の県庁の国際課は、自治体の担当者の意見に耳を傾け、自治体と一緒に多文化共生施策を進めて行こうという風土があり、自治体側も、一自治体で取り組むには大きすぎる課題であるため、広域連携して取り組んでいきたいという機運があり、全県で連携して取り組むため、「かながわ自治体の国際政策研究会」という場で、職員は議論し、実践を繰り返していました。アフターファイブで、交流を深めることも多くありました。



そこで、松本さんには本音で多文化共生を推進していくためのサジェスチョンをいただく仲となりました。大和市も横須賀市も、（公財）大和市国際化協会、NPO 法人横須賀国際交流協会という現場を抱えていたので、外国人支援スタッフぐるみの交流が生まれ、担当者間のコミュニケーションも密になり、本音で語り合うことができました。

今回は松本さんがされている活動のうち、①「やさしい日本語」研修で伝えていること、②「多文化共生とは」を中心に伺いました。

今回、「やさしい日本語」を広めて行く中で必要なことだなと、改めて認識したことは、

① 地方自治法第 10 条（住民基本台帳法第 4 条）には、市町村と都道府県の住民は、自治体のサービスを日本人と同様に受ける権利があること。加えて、手数料、使用料、税などを負担する義務があること。ここには、「日本国民たる」の国籍制限がない。という根拠があること。

② 生命・財産の保全、緊急度の視点で伝えるべき情報を取捨選択する（情報トリアージ）の必要性でした。日本語を母語としない人、目や耳が不自由な人（老眼、耳が遠くなっている人も）にとって、日本語を読む・聞くことは大きな負担だからです。

このようなことを踏まえて、松本さんは自治体職員向けに、また、「やさしい日本語」が必要な人たちを支援する人たち向けに「やさしい日本語」の伝道師として全国を「旅芸人」（ご本人談)のように巡業されています。

松本さんの報告に、東京都港区のやさしい日本語を公文書に積極的使っているというお話がありました。以下の HP でご確認ください。
港区ホームページ／実践！やさしい日本語による公文書
(city.minato.tokyo.jp)

事例報告２
子育て支援の課題へのアプローチ　　永井 圭子さん

永井圭子さんは、皆さんご存じのとおり、（特非）ワーカーズ・コレクティブチャイルドケアの理事長をされています。永井さんが代表をされている「チャイルドケア」は子育て分野において、個別的、機動的かつ丁寧に支援を行われています。その永井さんに松本さんと是非対談して頂きたいと考え、今回のキャスティングをさせていただきました。

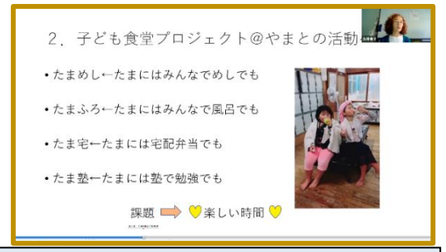
実は、永井さん、第１回の共育セミナーのスピーカーだったのですが、その永井さんが第100回のゲストスピーカーとして登壇されたので、時代は巡るのだと思いました。

永井さんは、大和市平和都市推進事業実行委員会の会長を長年務められていて、今年も大和市の「ヒロシマ平和学習派遣事業」で子どもたちと一緒に広島平和記念式典への参列や広島平和記念資料館の見学、被爆体験者の講演を聞かれたりされたとのことでした。「子育て支援」とともに「平和」もライフワークとされています。

「チャイルドケア」は設立して 22 年。その活動の需要は多く、大変お忙しいはずですが、永井さんはそこにとどまらず、新しいことに、常にチャレンジされています。

おもしろいと思ったことを突き詰めて、一つの木に登ると、次に他の木に登ると最初の木とつながっていたりして、専門性が一気に跳ね上がります。そこで、ターザンのようにいろいろな木に移りながら、ここから見るとこうだよねっているのがわかるような人になりたい。そのモチベーションをお分けしていきたい。

大和市内には、まだ銭湯が残っていて、子どもたちは大喜びとか。（たまふろ）活動



インクルーシブな社会の実現のためには、まだまだ課題はいっぱいありますが、やろうと思う人が声をあげてやるしかないと思います。それを解決していけるパワーをいつも持っていたいと思います。

2020 年には、神奈川県内には 1 ヶ所しかない「ホームスタート」を開始されました。ホームスタートは、未就学児が１人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が訪問する「家庭訪問型子育て支援ボランティア」のことで、友人のように寄り添いながら「傾聴」（気持ちを受け止めながら話を聴く)、「協働」（一緒に何かをする）して、孤立しがちな親子のもとへ支援を届けているということで、市外へ訪問に行くこともあるそうです。

また、この９月からは、「NPO 法人パノラマ」が大和東高校で新たに始めた、校内居場所カフェ「朝 BORDER」にボランティアで参加されています。朝 7 時 30 分スタートで１時間半ぐらいの高校生への朝ごはん提供事業ですが、運営するこども食堂で面倒をみてきた子どもたちが、高校受験をする年代になって、学習支援もしている永井さんが、高校生とふれあってみたいと飛び込まれたとのことです。

カフェにやって来る高校生と「おはよう」とあいさつを交わし、おにぎりやパンでお腹を満たした彼らとの何気ない会話で、エンパワメントされると語りました。

さらに、永井さんは、ファーストステージの若者や母子家庭の子どもたちに、居場所となる住まいを提供しようと模索を始めています。そのあくなきチャレンジ精神に大きな拍手を送ります。

トークセッション　松本義弘さん×永井圭子さん
多様化する社会に対応するには、どうしたらいいの

―松本　コロナ、円安、地球温暖化等の課題がある中で、昨日、全国で３番目のフェアトレードタウンである逗子市に３回目の認定のための現地調査に行きました。そこでショップの経営者から話を聞きました。「途上国の商品を買い叩かずに、正当な価格で買うというシステムですけど、そうするとちょっと高めのものがもっと高くなるんですけどやっていけないんじゃないですか」と厳しい質問をしたら、「辛くはなると思いますが、1 ドルが 360 円の時代からフェアトレードをやっていた先駆者たちがやって来たのだから、私たちにできないことはありません」という前向きな答えが返ってきました。こういう人たちが多様化する社会、暗い影が忍び寄ると想像される事柄を乗り越えていくのだと強く感じました。

―永井　このような中で、私に何ができるかなって考えるんですが、地域にいる、身近にいる、足元にいる人たちのことを忘れてはいけないと思うんです。コロナですごくストレスが溜まっていて、厳しい子どもたちもいます。実際、大和市でも、虐待やネグレクトが増えてきています。そのなかで、私にできることは、子どもたちや保護者にこれまでと同様に寄り添っていく、いろんなことがあって、一様には言えないんですけれど、「つまずいていることがあれば一緒に考えるよ」っていう立ち位置でいつも待っている存在になれたらいいなと思っています。

―松本　こども食堂をやられていて、今は仕入れ値が高騰して大変なのではありませんか。

―永井　こども食堂は、多くの人の寄付をいただいて、ボランティアが運営していますが、コロナ禍で意識の向上が見られますし、みなさんが少しづつ、いろんな形で寄付をしてくださっています。何もできないけどお金で寄付をするという人もいます。だから結果としてそんなに寄付は減っていません。寄付をしてくれた方に対しては、事業の報告をしています。このようにゆるゆるとつながっている人たちが大勢います。さまざまなことをするときに、できる人ができることをしてくれます。だから成り立っています。

―松本　日本のコミュニティーって、キチキチっと準備をして、思い通りにいかないと怒っちゃうような仕組みづくりって結構あるんですが、永井さんの活動は非常に多岐に及んでいるけれど、非常に緩やかにやられている。だから、こんな辛い状況でも支える人数が増えたということですね。このような求心力があるのは、おおらかでゆるやかな枠組みをお持ちだからだなと感じました。

―松本　永井さんの支援する外国ルーツの子どもたちを更に支援するためには、教育委員会や国に支援教育アドバイザーのような人がいるということを知れば、その制度を活用できます。先ずは知ることが大切です。ワンストップアドバイザーという形で、国際化協会などに配置してもらえるよう働きかけるといいかもしれません。事例報告でお話ししたように、港区では外国人の保護者だけではなく、日本人の保護者にもやさしい日本語で文書を送付しています。そういう事例を実際に見ていただくといいですね。知ることが次の行動につながります。

10、11 月の展示コーナー

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

共育ボードより　☆ブルー!!で統一されてとてもすてきです。
☆力強い素晴らしい作品に感動しつつ世界の平和を祈ります!!

やまと国際オペラ協会(11/1～15)

共育ボードより　☆どのレシピも美味しそうで、子どもたちと一緒に作る楽しみが増えました。今後も新しいレシピを楽しみにしています。
☆旬の料理のけんきゅう(勉強)してお母さんと作ってみんなで楽しく食べたいです。☆旬の食材をおいしくたべたい!!
☆コロナに負けずに１つステキな活動ができてよかった!!